
しゃべくりトーク！

i z u m i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しゃべくりトーク！

【Nコード】

N5242Z

【作者名】

izumi

【あらすじ】

トーク小説が始まった！！スマブラ&らきすた&オリキャラからの7人が毎回知らされていないゲストたちと一緒にトークを繰り広げる！！ボケあり、ツツコミあり、笑いあり！！とりあえず面白ければ何でもアリ！！つーわけでトーク小説、はじまるぞおおおお！！！！！！

挨拶と言つ名の自己紹介（前書き）

新たに始まつたこの小説！！

ネタどうしようか…。

挨拶と言つ名の自己紹介

アイク「…何だここは？」

とあるスタジオに集められた7人の…。

こなた「何で逃走中のな雰囲気？」

かがみ「ってか何よ此処…。」

レギュラーたち。

アイク「レギュラー…？」

あれ？地の文の会話聞こえてるみたいだね。

アイク「何だこいつ！？」

マルス「いきなり始まって何ですかこれ？」

ちなみに、今いるのは…。

アイク「俺と。」

マルス「僕と。」

こなた「私と。」

かがみ「あたしと。」

つかさ「私と…。」

涼平「俺と。」

椎名「私です。」

…。

アイク・マルス・こなた・かがみ・つかさ「誰!？」

あ、そいつらは僕のオリキャラの…。

涼平「初めてだね。あきがひょうへい秋神涼平です。」

椎名「らいもんじ雷文寺しいな椎名です。」

こなた「ふゝん、そうなんだ。」

かがみ「納得する!？」

マルス「所で…これは何？」

これは新しい小説なんだよ。

アイク「ほぉー…で、テーマは？」

トーク小説だね。

マルス「で、誰相手にトークするの？」

ゲスト相手に。毎回ゲスト呼んでゲストと一緒に楽しくトークを繰り広げるんだよ。

こなた「まさかゲストは毎回秘密！？」

そうだね。これ元がああの番組だから。

こなた「ポジションは？」

それはそちらで決めちゃって！

かがみ「何でだよ！？」

こなた「まあ毎回やればそのうち決まるか。」

涼平「そうだね。」

椎名・かがみ「何でそう受け入れられるの！？」

こなた「じゃあ次回からこのコーナー始まります。」

椎名「コーナーなのこれ！？コーナー扱いなの！？」

アイク「ゲストはさっき聞いたけど毎回秘密だそうだ。」

マルス「さっき言ってたよね！？先ほど聞いたことだよね！？」

つかさ「次回から始まりますので…。」

7人「見て下さい！！」

挨拶と言つ名の自己紹介（後書き）

最初のゲストは…誰だ!?

第1回目（前書き）

一体どうなる第1回目！！

果たして最初のゲストは！？

第1回目

こなた「始まりました。」

アイク「もう不安しかないんだが…。」

マルス「全くだね。」

つかさ「あはは…。」

こなた「不安と言えは。」

アイク「…。」

マルス「…。」

かがみ「…。」

つかさ「…？」

涼平「…。」

椎名「…。」

…。

こなた「誰も無いの？」

アイク「…では、最初のゲスト呼びいたしましょうか…。」

かがみ「？」

カンペが出されたので確認するかがみん。

かがみ「誰かがかみんだ！」

こなた「照れちゃって。」

かがみ「うるさい！！」

マルス「僕がカンペ見ましょうか…えっと…ゲストの方は3人組だ
って。」

アイク「3人組…？」

こなた「ありきたりなパターンだね。」

涼平「もう呼ぶか。」

椎名「そうですね局長。」

アイク「ではゲストの方、この方たちです。」

銀時「よう、 teme へら。」

神楽「私たちが呼ばれたアル!!」

新八「よろしく願いします!!」

登場したのはこの3人だ。

アイク「ゲストは万事屋の3人衆です!」

第1回目のゲスト 『坂田銀時・志村新八・神楽』

銀時「しかし俺たちが最初のゲストでいいのか?」

マルス「そうだったら帰りますか?」

アイク「まあその方が楽だからな。」

銀時「よっし、じゃあ帰るか。」

神楽「帰って酔昆布たくさん食べるネ!」

銀時・神楽以外「いやいやいやいや!!!!!!!!」

新八「此处は「何で帰らないといけないんだよ!」的なノリをする

所でしょう！？何で真に受けているんですか！？」

銀時「いや、帰るかって聞かれたから…。」

アイク「場の空気を読め天パー！！」

銀時「ああん！？誰が天パーだ！！好きでこうなったわけじゃねえからな！！」

マルス「ああもう早く席に座りましょう！！」

かがみ「ゲストは坂田銀時さん、志村新八さん、神楽さんの3人です。」

観客「わああああ！！！！！！」

銀時「なんか…恥ずかしいな…。」

新八「そうですね…。」

神楽「お前ら情けないアルなー。こうゆう時はでかい態度でいるのが基本アルよ。」

涼平「もう少し態度はよくした方がいいぞ。」

かがみ「えーなんか聞きたいことはありませんか？」

アイク「俺聞きたいことがあるな。」

かがみ「んじゃアイクさん！」

アイク「お前らつてさ…バカ？」

銀時「何しよっぱなからとんでもねえ事聞いてんだ！！」

神楽「そうアルね！！」

アイク「いや…巨大エイリアンに向かって白い犬と木刀だけで向かって食われたり、猿に汚いもの投げつけられたり、ご飯に小豆だけやマヨネーズだけかけたり、金色のカブトムシに滅茶苦茶でかいカブトムシで挑んでいたり、ストーカーがいるし、ともかくまとめるとバカだし…。」

銀時「いろいろ言ったあとに酷いこと言うな！！」

マルス「そう聞くとバカしかないね。」

涼平「バカだな。」

椎名「後変な白い生き物（多分エリザベスのこと）もいるし…。」

つかさ「どんな人たち…？」

かがみ「つかさ、最後のは人じゃないと思うからね。では此処でコーナーに突入します！」

銀時「え？コーナー何かあるの？」

かがみ「ありますよ。」

神楽「どんどこいアル！」

かがみ「では行きます！『質問トーク』！」

そうかがみが叫ぶとスタジオの舞台そこから上の方Y e sとN oと書かれたボードが出て来た。

新八「何ですかそれ！？」

かがみ「これはメンバーから質問が来るのでそれをY e sかN oの二択で答えていただき、Y e sと答えた質問に答えていくコーナーです。」

銀時「何だよそりゃ…。」

かがみ「では、メンバー6人にこれを配ってください。」

そして、配られたのはペンと、質問ボードだった。

かがみ「では、質問をお考えください。」

こなた「はい！」

かがみ「え！？早！！」

こなた「まあ最初だから軽〜く行きましょうよ。」

涼平「そうだな。」

こなた「質問はこれ!!」

『秋葉原に行きたい?行きたいって言うなら私が案内してあげるよ。』

かがみ「でやああああ!!!!!!!!!!」

ドコッ

こなた「あー!!!!」

かがみに思いっきしツツコミをくらったこなたは前の方に行き…。

こなた「ユニバース!!!!!!」

某アニメのセリフを言った。

かがみ「何それ!?!この質問は無しということだ!!」

新八「教えて下さい!!」

かがみ「うるさいメガネ!!」

新八「メガネって何だよ!!」

アイク「俺行きます。」

かがみ「あーんじゃどうぞ。」

アイク「これならいけるだろ?」

『一番迷惑だと思う奴は誰?』

銀時「ああ!？」

かがみ「YesかNoか!」

どっちだ!?

銀時「…これは、いいんじゃないか?」

Yes

観客「おおー!?!?!?!」

かがみ「Yesですか…どんな答えが出るんでしょうかね。次!」

つかさ「はい。」

かがみ「つかさ…?どんな質問…?」

つかさ「え〜と…これ。」

『一番楽しかったのってどんなこと?』

かがみ「では、お答えください。」

どっち…!?

銀時「Yes。」

Yes

かがみ「まあそりゃそうよね。」

涼平「俺も行かせろ!。」

かがみ「はいはい。質問は?」

涼平「これだ!。」

『一番やばいと思った事は?』

涼平「これはいけるだろう!。」

かがみ「ではどっち?」

新八「Yesで…。」

Y e s

かがみ「Y e sですか…では次。」

椎名「私から。」

かがみ「質問何ですか？」

椎名「噂で聞いたことあるんだけど…これどう？」

『新八君って一回ゲームの彼女とキスしたって本当？』

新八「あっ…これは…。」

観客「えええー！！！！？？？」

かがみ「マジ！？さあ答えは！？」

神楽「Y e sアル。」

新八「ええ！？此処はN oでしょ！？」

神楽「黙るアルダメガネ。」

ダメガネ「なんだよダメガネって！！…って名前の所！！作者！！！！！！」

ごめんごめん入力ミスwww

新八「絶対にわざとだろ…。」

かがみ「この質問でいいですか？じゃあ一つずつ聞いて行きます。」

アイク「まずは『一番迷惑だと思う奴は誰？』か。」

涼平「誰なんですか？」

銀時「俺は…ツラだな。毎回毎回めんどくせえんだよ…。」

こなた「ツラじゃないこなただ！」

新八「何真似してるの！？」

マルス「で、メガネは？」

新八「メガネって言うな！！僕は近藤さんですよ…姉上へのストーカー行為はやめてほしいんですよ…。」

椎名「殴られても懲りないねあのクソは。」

新八「クソって…。」

神楽「私はドS野郎アル！！あいついつか…。」

椎名「神楽ちゃん？顔が怖いよ？」

かがみ「次の質問にいきますか？」

新八「一番楽しいことですか？」

銀時「別に無しでいいんじゃないか？」

新八「何ですか!？」

銀時「いや、本当に…。」

神楽「だから新八はいつまでたっても新八なんアルよ。」

新八「何それ!？」

アイク「もう次行くぞ。」

銀時「こつちも無しでいいな。」

新八「何で!？」

銀時「いや、次の事聞きたいだろ？」

全員「…あ…。」

新八「え…何この空気…。」

かがみ「じゃあ次行きましょう!！」

新八「ちよつとおおおお!…!…!…!…」

かがみ「これ聞きたいんですけどね…これの真偽は…?」

第1回目（後書き）

次回へ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5242z/>

しゃべくりトーク！

2011年12月17日22時57分発行